

新会員歓迎観察会

早春の奥貴船を歩く

◎実施日 2021年4月2日

◎参加者 12名（内新歓対象者 4名）

◎天気 晴れ

◎集合 9時15分

叡電出町柳駅⇒市原⇒(バス)⇒貴船口⇒貴船…貴船神社…奥の院…貴船川堰堤…貴船

今年の春は早く、市内ではすでに桜が満開を過ぎ散り始めるという時候になっていました。しかし貴船はさすがにバス停で降りると肌寒さを覚える感じでした。早速バス停前の道端でアオハコベを見つけて皆さんびっくりしばし撮影会です。驚くのも当然です。五枚の星形の花は緑色、でもこの5弁は萼で花弁は退化しているようです。

私が初めてこの花に出会ったのは10数年前、比叡山の無動寺谷を歩いていたときのことです。明王堂から下って途中で若干湿地状の所にトウゴクサバノオやミヤマカタバミなどと一緒に咲いていました。初めはハコベの咲き終わりかと思いましたが、どの個体もみんなそうっており変だなと思い、家で図鑑を調べて初めてアオハコベと知り驚いたものです。他にもありふれた種が沢山あり、それなりに面白い観察が出来ました。noi-Kyotoでは結構人気があるカテンソウもあって、雄しべが開く様子や、それにともなって花粉が煙のように飛ぶ瞬間を捉えようとカメラを構えて待っている会員もいました。狭い範囲でタチツボスミレ、ナガバタチツボスミレ、アカフタチツボスミレも見ることが出来ました。



カツラの大木



ヤブツバキ

奥の院をめざして歩き始めると道の両側には料亭などが軒を並べるのですが、その脇や貴船川沿いにも様々な草が咲き出し、観察の眼を休める暇がありません。まだヤブツバキの真紅の花が対岸に美しく咲き誇っていました。少し水の流れるところにフキかと思いきや、葉の表面が艶やかで白い花を咲かせたワサビでした。この辺りにはムラサキケマンやフウロケマン or ミヤマキケマン、ツルカノコソウなども咲いていました。

貴船神社あたりまで来ましたが、コロナ感染拡大のためか観光客はほとんどいません。おかげで参道や水占いの場所でも人だかりを気にせず観察が出来ました。参道の横斜面を丹念に観察していきます。ウバユリ、ニリンソウ、マルバコンロンソウ、ミヤマカタバミ、白/青/ピンクのヤマドリソウ、オオタチツボスミレ、イチリンソウ、スズシロソウ。水占いの後ろの石垣上には花が終わったキクザキイチゲが並んでいました。この辺りに来るともうシャッターチャンスだらけです。そんななか、水占いをしている参加者が…。はてさて結果は吉か凶か、どっちだったでしょう。トウゴクサバノオがいっぱい咲いている小川畔を観察して、橋を渡り元の道に出ました。

まだ花の時期ではないですが道沿いにはウラジロウツギが沢山生えています。コクサギも散見され、この地が石灰岩質を含む地質とわかります。紫の花が足下に見られ近くによるとラショウモンカズラとわかりました。シュンランも花を開きだしていました。丁度花を咲かせているイヌガシも見られました。奥の院を越えると林道沿いの斜面にはチャルメルソウ、コチャルメルソウ、ボタンネコノメソウ、ハナネコノメソウ*、タチネコノメソウ、コタニワタリが見られます。更に進むとフッキソウの群落、ユリワサビ、ギンレイカなどが次々に現れます。樹木では御神木とも言える大木のカツラが株立ちし、相生の杉と言われる大きなスギが立ち上がります。ウリノキやなかなか見ることの出来ないメグスリノキ等のあるのもこの辺りです。堰堤にたどり着き、元来た道に戻って奥の院の向かいの河原で昼食をとりました。その周辺を歩いているとコショウノキの花が開きだしていました。環境省絶滅危惧1類の◎◎◎も見つけ大感動。かつて滋賀県の石田川の河原と安曇川の河原で見つけて以来です。もちろん京都では初めてです。ここを最後に来た道を帰りました。途中料亭の前に小さなハルトラノオが咲いているのを見て、貴船のどこかに自生したものを移したのだろうかと思いつつ貴船のバス停でバスを待ちました。



ミヤマカタバミ



ニリンソウ



ラショウモンカズラ



タチツボスミレ



アオハコベ



鯖のしっぽのような実が付くトウゴクサバノオ



カテンソウ

京都の市内からわずかな時間で、これ程沢山の稀少種を含む植物種を見られる貴重な場所に来られたことは実に嬉しく楽しい一日でした。これらの植物がいつまでもあり続けることを願っています。

*永井かな「鞍馬・貴船の植物図譜」や北村・村田(1961)、大場(1981)によると貴船はハナネコノメとされ、それが踏襲されてきました。これらの分類は萼片の先端の形と雄蕊の萼片からの超出長等で行われました。最近ネットサイト(「花さんぽ」)で花粉の色によって分類できるということが書かれました。匿名で責任の所在が明らかでないが、あえてそれを取り上げ分類に花粉の色が有効かどうかを織田・村長(2015)は形態と花粉の色を各地域のハナネコノメとシロバナネコノメソウについて詳細に調べました。

結果として東日本はハナネコノメ域、西日本はシロバナネコノメソウ域としたが、近畿地方は両者の混在、中間形が多い。花粉については東日本(福島から岐阜県北東部)が黄色でハナネコノメ、西日本(岐阜県南西部から宮崎県)が白色でシロバナネコノメソウの結果を得ています。ただ中間形が多い近畿、三重は今後の遺伝子調査などにより詳しい実態の解明が望まれるとしています。

※詳細を知りたい方は下記をお読み下さい

日本植物分類学会誌「分類」15巻(2015)2号

「花粉の色によるシロバナネコノメソウとハナネコノメ(ユキノシタ科)の判別とその地理分布」



ユリワサビ



ウグイスカグラ



ヤマリリソウ



コチャルメルソウ



シロバナネコノメソウ or ハナネコノメ



ボタンネコノメソウ



ミヤマハコベ



シュンラン